

『百人一首』 中村素堂先生の仮名散らし書きの魅力 (三)

忘らるる身をば思はずちかひてし 人の命の惜しくもあるかな

右近

〈歌意〉

「あなたに忘れられる私の身をつらいとは思わない。それよりも神にかけての私との誓いを破り、神仏の罰を受けて失うであろうあなたの命が惜しく思われるよ。」

〔出典〕『拾遺集』(恋・八七〇番)

(右近)

生没年不詳。右近衛少将藤原季繩すえなわの女。

〈よみ〉

忘らるる身をば思はずちかひてし 人のい能遅
のをし九
もある可那

